

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 中根小

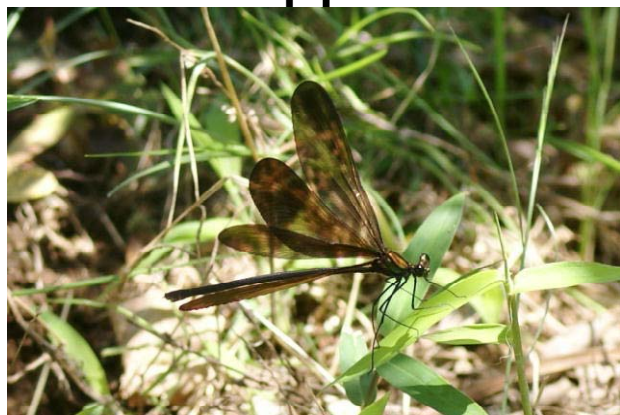
2010年6月25日発行

＜校庭の生き物観察にハグロトンボ、チョウトンボ現れる＞

梅雨の晴れ間の24日、4年生が校庭の生き物観察をしました。春に咲いていた花はどうなっているか？夏になって現れた昆虫や鳥は？など、観察ビンゴカードを使って探し回りました。

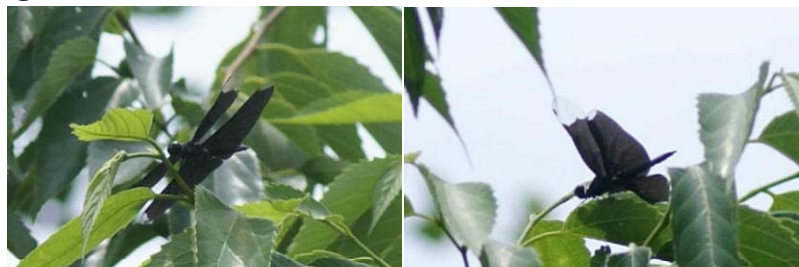
今回はその中から、トンボの仲間を2種、ご紹介します。

①ハグロトンボ(カワトンボ科)



中根小では、この時期おなじみのハグロトンボですが、東京、神奈川では特に絶滅の危険度が高く、全国的にも珍しくなりつつあるトンボのようです。ヤゴ(幼虫)はヨシなどの水生植物の茂った緩やかな流れに暮らし、夜半から早朝にかけて羽化して、若いトンボ(成虫)は風通しのよい林の中で生活しますが、成熟すると再び流れにもどり水草に産卵するのだそうです。つまり中根小学校はその往復の通り道にあるのですね。同様の話は、アサザ基金の方もよく聞かせて下さいませ。校内ではアジサイなど背の低い木にとまっているのをよく見かけます。写真のトンボはササの葉にとまって翅を閉じたり開いたりしていました。和名の「ハグロトンボ」は翅が黒いことから付いた名だと思われがちですが、実は、歯を黒く染めるのに昔使われた「お歯黒」に似ていることによるようです。ゴクラクトンボ(極楽蜻蛉)とかカミサントンボ(神様蜻蛉)など他にもいろいろな呼び名があるそうです。

②チョウトンボ(トンボ科)



そして今日、もう一つの発見はチョウトンボ。ハグロトンボと同じように翅が黒くてチョウのようにひらひらと飛ぶので、「ハグロトンボ～！」という声があちこち聞かれましたが、よく見てください。翅を開いたままとまっていますね。翅の幅も広く、先は無色透明です。これはチョウトンボ(まるでチョウのようだから)。全国的にも数が減っていますが、特に東日本では珍しく、茨城をとり囲む福島、栃木、千葉県でも準絶滅危惧種に指定されています。

【理科支援員・宮内】